

社会的責任ビジネスの持続可能なビジネス・モデルの編成とマネジメント

研究の概要

営利法人、とりわけ株式会社形態の企業組織でありながら、株主や法人の経済的利益の最大化のみならず、多様な諸ステークホルダーの利害や社会、自然環境との調和を前提とした企業経営の議論が活発である。例えば競争戦略論を応用したCSV（creating shared value）論、ベネフィット・コーポレーションやソーシャル・ビジネスなどの会社制度のリデザイン論などである。それらは株式会社形態の企業における経済的利益の獲得の仕方を再考することを特徴とする。昨今のこの種の議論は、従来の着想とは異なり、規範的、倫理的観点から経営行動に負担を強いる諸活動の甘受を説くのではなく、多様な諸ステークホルダーとの協働を重視する形で、価値の共創を指向する。負担や責任の共有と共に、ネガティブな要素をポジティブに転換する工夫や仕組みの創出（共創）を重視する。

本研究はこうした意向の経営行動を社会的責任ビジネスと捉え、そのビジネス・モデルの編成や共創のメカニズムおよびそのためのステークホルダー・コーディネート・マネジメントの照射・応用を研究内容としている。

研究の特徴

本研究の問題意識は、以下の3事項に関する研究関心・実績から構成されていることを特徴とし、当該事項それぞれに関する、または総合的な、調査、助言、研修等を通じて、当該事項に関心を持つ機関や者の、問題発見・認識に寄与し得る。それらは、(一)国内外の事業所におけるSDGs（Sustainable developments goals）に対応した経営管理システム・慣行（経営者、管理者の意識変革を含む）の整備・編成、(二)コスト負担要因と捉えられがちが社会的責任活動、コンプライアンス事項等をイノベーション・ドライバーに位置づけ、経済的利益と社会的利益を共創する持続可能なビジネス・モデルの考案・設計、そして(三)そのためのビジネス・エコシステムの編成・再編におけるステークホルダー関係のコーディネート、である。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

和歌山県経営者協会と連携し、和歌山県下事業所におけるCSR（企業の社会的責任）経営への取り組み状況に関する2件の産学共同調査を実施した。詳細は以下を参照。

和歌山県経営者協会との産学共同研究実績

1. 「和歌山県経営者協会会員企業および県内主要企業における「CSR経営への取り組み状況」に関する調査」、2012年11月、
2. 「CSR経営への取組状況に関する国際比較調査：和歌山県下所在主要企業における社会的責任経営の取組状況調査」、2016年9月

当該調査に基づく研究業績

「和歌山県経営者協会会員企業および県内主要企業における『CSR経営への取り組み状況』に関する調査中間報告」、『ワーキング・ペーパー・シリーズ』,13(6), 2012年、

『和歌山県下事業所におけるCSR経営の調査・実証研究』, 2014年、和歌山大学経済研究所刊「リージョナル企業におけるCSRパフォーマンスと社会的責任経営浸透度の分析：和歌山県下企業をケースとして」、『研究年報』, No.21, pp.93-142., 2017年、Anura De Zoysa(University of Wollongong) 氏との共著

“Corporate social responsibility performance of small and medium enterprises in regional Japan”, Social Responsibility Journal, Vol.16, No.4, pp.449-466., 2019年、Anura De Zoysa(University of Wollongong) 氏との共著

研究者からのメッセージ

研究者以外の機関との外部連携の余地に関しては、以下サイトの「社会貢献」欄等を参照のこと。

<https://researchmap.jp/read0055702>

研究分野：企業の社会的責任論、持続可能なビジネス・モデル、ソーシャル・イノベーション

研究者の所属部局・職位・氏名：和歌山大学経済学部 経済学科・教授・高岡伸行

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp